

認定特定非営利活動法人
市民活動センター神戸

2012 年度
年次報告書

(2012 年 7 月 1 日～2013 年 6 月 30 日)

2013 年 9 月

KEC;KOBE EMPOWERMENT CENTER

2012 年度事業報告書

I. この1年を振り返って	・ ・ ・ ・ ・ 3
II. 事業	
1. NPO 支援事業	・ ・ ・ ・ ・ 4
①認定 NPO 法人相談事業	
②相談事業	
③認定 NPO 法人チャレンジ講座事業	
④神戸市アドバイザー派遣・サポーター事業	
⑤学び支援（講師派遣）事業	
⑥「伝えるコツ」セミナー事業	
⑦ひょうご市民活動協議会（HYOGON）事務局	
⑧神戸元町 NPO ポート事業	
2. NPO のための資源仲介事業	・ ・ ・ ・ ・ 8
①ひょうごコミュニティ基金創設事業	
②資金循環および情報発信力向上事業	
③市民ファンドの共同広報事業	
④神戸文化支援基金事務局	
⑤住友ゴム CSR 基金、GENKI スクエア事業	
⑥サンケイリビング紙での NPO 等の情報発信	
⑦SAVE JAPAN 事業	
⑧その他の資源仲介事業	
3. 調査研究、政策提言事業	・ ・ ・ ・ ・ 14
①ひょうご NPO 研究会	
②NPO 法人「手引き」改訂事業	
③NPO 関連制度に関する政策提言等の事業	
④機関誌「みみずく」発行事業	
⑤ウェブサイト・メールニュース発行事業	
⑥役員就任・審議会・研究会・ネットワーク等	
4. 東日本被災地支援事業	・ ・ ・ ・ ・ 17
①職員派遣	
②被災地 NPO 応援基金の募集と助成実施	
③避難者支援団体のネットワークづくり	
④東日本大震災 NPO 育成・強化プロジェクト	
5. その他の事業	・ ・ ・ ・ ・ 18
①JICA 技術研修事業	
②みみずく舎業務受託事業	
③会館・みみずく書房事業	
III. 組織	・ ・ ・ ・ ・ 19
1. 会議	
2. 会員	
3. 役員	
4. 事務局	

I. この1年を振り返って

この一年は、市民活動センター神戸にとって大きな画期となる一年でした。一大目標であった「市民ファンドの設立」は、多くの皆さまに支えられて無事達成することができました（2013年6月「ひょうごコミュニティ財団」の設立。7月に公益財団法人に）。もちろん財団設立はスタートラインに立ったにすぎませんが、これに至るプロセスで多くの方々との関係が育まれました。当会としても大きな精力を傾けた一大事業がひとまず第一段階をクリアし、中身の充実という第二段階に進んでまいります。

コミュニティ財団の立ち上げを最優先事項としたため、他の事業は若干手薄になったのは否めません。しかしこれまでの蓄積と専門性を活かし、いくつかの重要事業については力を入れてまいりました。「認定 NPO 法人」の取得サポートは神戸市を中心に力を入れ、2013年7月までに神戸市・兵庫県に認定された認定・仮認定 NPO 法人 8 法人のうち 7 法人には当会が何らかのサポートをしていました（全国比でも、神戸市ではかなりハイペースに（仮）認定 NPO 法人が生まれています）。

また、東日本の被災地への支援も継続しています。現地への支援も続けていますが（福島への支援（メンタリング））、うつくしま NPO ネットワーク（UNN）と連携した「福島＝兵庫ブリッジプロジェクト」のほか、もっとも力を入れたのは兵庫県に避難して来られている人への支援活動です。NPO、社会福祉協議会、弁護士会など諸団体と協力して支援団体のネットワーク「避難サポートひょうご」を立ち上げ、長期的に支援を継続する基盤を整えました。

この一年も例によって変化が激しく、厳しい組織運営が続く一年でしたが、会員を始めとする多くの支援者の皆さま、連携団体の皆さまのお蔭で大きな成果を上げることができました。改めて日頃のご支援に感謝申し上げます。

II. 事業

1. NPO 支援事業

認定 NPO 法人の取得サポートを、神戸市を中心に行いました。幸い神戸市委託事業を昨年度から継続して受託、多くの団体の後押しができました。また、認定をテーマとする講習会や、恒例となった「伝えるコツ」など参加者満足度の高いセミナーを実施しました。

準備会（1999 年～）以来、足かけ 15 年間、事務局を務めてきた「ひょうご市民活動協議会」（HYOGON）ですが、新しい有力な担い手が手を挙げてくださったので、事務局を交代することになりました。昨年同様、「ひょうご NPO 研究会」や「手引きプロジェクト」に積極的に参加し、オール兵庫のネットワーク形成や、行政や議会との関係構築に尽力しました。

①認定 NPO 法人相談事業（2012 年 4 月～）

2012 年度（～2013 年 3 月）に続き、2013 年度（2013 年 4 月～）も継続して受託。神戸市内に限られるが、多くの NPO 法人および任意団体に認定 NPO 法人制度の情報普及と、申請のサポートができた。神戸市・兵庫県内で昨年制度改正以降に認定・仮認定 NPO 法人となった団体（計 8 団体）は、次々項（③）の事業を含めると 1 団体を除いてほとんどが当会のサポートを受けた団体となった。

相談件数（団体数）	70 件（39 団体）	
認定・仮認定の申請件数	認定：3 団体	仮認定：4 団体
認定・仮認定の件数	認定：2 団体	仮認定：2 団体
説明会	5 回開催	計 34 名参加

（いずれも、2012 年 7 月～2013 年 6 月の実績）

（実施体制）

- 相談員：今田忠理事、実吉威、藤本高英、大島一晃
- コーディネーター：藤本高英
- 記録：興津慶

②相談事業

個別の相談に対応した。一部は、①認定 NPO 法人相談や④アドバイザー派遣で対応した。

③認定 NPO 法人チャレンジ講座事業

これも昨年度からの継続で、新しい公共支援事業の一環の兵庫県委託事業。認定 NPO 法人制度の概要を伝えるセミナー（3 回）と、中間支援組織向けの研修会を実施した。前者は、2012 年春から神戸市内では上述の事業で支援ができていたため、神戸市外に焦点を当てて実施した。（担当：藤本高英）

<p>1. 「新制度で認定 NPO 法人になる！集中対策セミナー」講座</p> <p>内容：認定 NPO 法人制度の概要の説明および希望団体に対する個別相談</p> <p>開催：</p> <p>①播磨地域 2012 年 12 月 21 日（金）18:00～20:45 東播磨生活創造センター 講座研修室 〈参加者数〉 5 名</p> <p>②淡路地域 2013 年 1 月 10 日（木）13:30～16:30 洲本市立文化体育館 会議室 2C-1 〈参加者数〉 6 名</p> <p>③但馬地域 2013 年 3 月 17 日（日）13:30～16:30 兵庫県立但馬長寿の郷 第 2 研修室 〈参加者数〉 2 名</p>
<p>2. 「認定 NPO 法人制度研修会」</p> <p>中間支援組織スタッフを主な対象として、改正認定 NPO 法人制度の理解を深める研修会を実施した。併せて、同制度について所轄庁と事例を元に意見交換をし、制度の内実を共に作っていく場とした。</p> <p>内容：</p> <p>①研修：「認定 NPO 法人制度をどのように定着させていくか」論点整理</p> <p>②意見交換会：所轄庁、中間支援 NPO を交えての認定制度に関する意見交換</p> <p>開催：2012 年 7 月 27 日（金）15:00～16:50 神戸市役所会議室 〈参加者数〉 35 名 (NPO24 名、行政 11 名)</p>

④神戸市アドバイザー派遣・サポーター事業

規模を縮小、1 団体について実施した。（担当：実吉威、藤本高英）

<p>○NPO アドバイザー派遣事業</p> <p>1 団体のべ 5 回実施 (KEC 担当分)</p> <p>・ KOSMOS (実吉、藤本)</p>
--

⑤学び支援（講師派遣）事業

今年度は他事業を優先するため極力少なめに抑えた。

⑥「伝えるコツ」セミナー事業

広報のプロ（株式会社電通のクリエイティブディレクター）を講師に迎えた「NPO のための広報スキルアップセミナー」を開催し、テクニックだけにとどまらない、市民活動の思いを伝えるためのコツとヒントを学んだ。関西一円はもちろん、岩手、新潟や福岡からの参加者や、自治会、社会福祉法人など市民活動団体以外の参加もあった。アンケート結果における満足度は非常に高く（非常に満足 71%、満足 24%）、情報発信に関する課題意識と支援ニーズの高さがうかがえた。

（担当：入江陽子、藤本高英）

(KEC、日本 NPO センター、(株)電通の共催事業)

「『伝えるコツ』を身につけよう～NPOのための広報スキルアップセミナー」
日時：2013年2月8日（金）10:00～17:00
会場：電通関西支社
講師：横尾嘉信（電通シニア・クリエイティブ・ディレクター） 薄 景子（電通コピーライター・CMプランナー）
参加者：65名

(講座参加者の声)

- ・実際にチラシなどのアドバイスを頂けるのは本当に助かります！！勉強になります。わかりやすい講義で改めて学びました。今団体が一番伝えたいことを…考えなおしました…。
- ・とても勉強になりました。伝えるコツは常に活動をしている中で課題に上がる事です。じっくり考える事で自分達の活動をふりかえる事ができる良い機会になるのだと改めて気付かされました。
- ・何と得するセミナーでしょうか。
- ・ワンパターンしか考えつかなかったところ、いろいろとイメージがわいてきて、わかりやすかったです。そしていろんな団体がいて勇気づけられました。
- ・ありがとうございました。「コツ！」が端的に整理できたような…気がします。今後に於ける取り組みの妄想が広がります！

⑦ひょうご市民活動協議会 (HYOGON) 事務局

準備会発足（1999年）から当年度末まで足かけ15年事務局を務めてきたが、今年度の総会（2013年6月）をもって事務局を(特活)シミズシーズさんと交代した。

本年も昨年に引き続き、「ひょうご NPO 研究会」や恒例の賀詞交換会、HYOGON カフェなどを実施した。（ひょうご NPO 研究会は(特活)場とつながりの研究センターが事務局）

(担当：藤本高英、実吉威)

○第13回 HYOGON カフェ
日時：2012年10月5日（金）18:30～20:00
講師：コベルコシステム株式会社 延岡敏也さん他
テーマ：「NPOにおけるITセキュリティを考える」
参加者：13名
ITの専門会社から、3名の専門家においていただき、NPOのリーダー、情報管理担当者、NPOを指導する中間支援の担当者必聴の「ITセキュリティ」の初歩を学びました。
○HYOGON 青少年部会準備会の開催【新規】
兵庫県内の青少年活動を行う団体、関心のある会員間で、情報交換や協力体制を構築していくこ

とにより、市民の側から青少年活動における課題の解決、緩和を実現していくための青少年部会の準備会をおこなった。

第1回 10月18日(木) 19:00~22:00 (神戸自由学園にて)

第2回 2月4日(月) 19:00~21:00 (神戸自由学園にて)

○第8回 HYGON 賀詞交換会

日時: 2013年1月9日(水) 16:00~20:30

会場: 旧グッゲンハイム邸にて(神戸市垂水区塩屋町)

参加者: 67名

○ひょうごNPO研究会 →3-①

⑨神戸元町 NPO ポート事業

KEC 事務所が入居している秋毎ビルの3階において、引き続き中小規模 NPO への拠点提供事業を行った。(担当: 古寺瑞代)

1 室	兵庫県学童保育連絡協議会・神戸市学童保育連絡会 (3F)
2 机	参加型開発研究所 (特活) ソムニード
シェアデスク	なし

2. NPO のための資源仲介事業

県内の NPO 諸団体をはじめ行政、企業とも大きなネットワークを組み、「ひょうごコミュニティ財団」を創設するという大目標を掲げて準備を進めてきました。幸い、大方のご支援を頂戴して 2013 年 6 月 6 日に一般財団法人ひょうごコミュニティ財団を設立することができました(直後の 7 月 8 日に公益認定を得て公益財団法人に)。

この財団創設をもって、KEC 内部および中心となった 6 団体(※)による事業から、独立した法人の事業に運営責任とも移ることになりました。あわせて、これまで KEC で行ってきた神戸文化支援基金事務局業務など「資金循環」という面で同趣旨のものも財団に移行しました。

公益財団法人は無事設立できましたが、器ができただけで中身はこれからです。

※「新しい公共支援事業」を共同で実施した、KEC、(特活)コミュニティリンク、(特活)市民事務局かわにし、(特活)シミズシーズ、(認定特活)宝塚 NPO センター、(特活)場とつながりの研究センターの 6 団体

①ひょうごコミュニティ財団創設事業(継続)

コミュニティ財団創設のために、後掲の②、③とも総合的に展開してきた。コミュニティ財団設立のために各界から「応援団」を募り、2013 年 1 月に設立準備会を結成、2 月 11 日の設立応援フォーラムを経て役員等のお願いも進め、財団設立に必要な 300 万円を集めて無事 6 月 6 日に一般財団法人として登記した。

評議員

加藤 恵正	兵庫県立大学政策科学研究所 教授
木田 薫	(特活) ソーシャルデザインセンター淡路 理事長
小森 星児	神戸復興塾塾長、ひょうごボランティアプラザ名誉所長
高士 薫	(株) 神戸新聞社 代表取締役社長
竹中 ナミ	(社福) プロップ・ステーション 理事長
中田 豊一	(認定特活) 市民活動センター神戸 理事長
西河 紀男	三ツ星ベルト(株) 代表取締役会長
早瀬 昇	(認定特活) 日本 NPO センター 代表理事
水野 雄二	(公益財団) 神戸 YMCA 総主事
三野 哲治	住友ゴム工業(株) 代表取締役会長
三井 ハルコ	(特活) 市民事務局かわにし 副理事長・事務局長
山本 進	(特活) コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク 副理事長

理事長

下村 俊子 (株) 神戸風月堂 代表取締役会長

副理事長

島田 雄三 司法書士島田雄三事務所 所長、兵庫県司法書士会 前会長
田中 茂 (特活) シミズシーズ 理事長

専務理事	
実吉 威	(認定特活) 市民活動センター神戸 理事・事務局長
理事	
川中 大輔	シチズンシップ共育企画 代表
佐藤 等史	(特活) 場とつながりの研究センター 理事長
永田 譲蔵	財団専任ファンドレイザー
中山 光子	(認定特活) 宝塚 NPO センター 理事・事務局長
村上 早百合	神戸新聞 地域総合研究所 副所長兼企画調査部長
室崎 益輝	関西学院大学災害復興制度研究所前所長、ひょうごボランティアプラザ所長
監事	
津久井 進	弁護士
馬場 英朗	公認会計士、関西大学商学部准教授
顧問	
永田 萌	絵本作家
専門アドバイザー	
阿部 陽一郎	(社福) 中央共同募金会企画広報部長
今田 忠	元阪神・淡路コミュニティ基金代表、市民社会研究所所長
鶴尾 雅孝	(特活) 日本ファンドレイジング協会代表理事
荻野 俊子	NPO 会計支援センター代表
木村 紀雄	兵庫県企画県民部県民文化局県民生活課協働推進室室長
久保 幸一	日本政策金融公庫 神戸創業支援センター所長
茶野 順子	(公財) 笹川平和財団 (SPF) 常務理事
細谷 崇	(特活) コミュニティリンク代表理事
松井 薫	(株) 電通関西支社クリエイティブ局第 3 クリエイティブディレクション局次長
渡辺 元	(公財) 助成財団センター・プログラム・ディレクター
宮崎 洋彰	公認会計士、税理士

② 「共感寄付」事業（資金循環および情報発信力向上事業）（継続）

昨年度に続き、「共感寄付」事業に取り組んだ。2012 年 10 月から第 1 期、2013 年 4 月から第 2 期として、それぞれ 6 団体を選び「共感寄付」として寄付集めに取り組んだ。

2013 年 6 月末までで、

第 1 期 1,662,500 円

第 2 期 266,677 円

の寄付を集めている。

※「共感寄付」とは、寄付による資金集めに取り組みたい団体が特定の事業を市民活動センター神戸に提案し、寄付者はそれらの事業の中から支援したいと思うものを選んで寄付し、寄付を受け付けた市民活動センター神戸が助成を実施するというもの。

(担当：実吉威、永田譲蔵、奈良雅美、大伴直也、入江陽子)

【第 1 期団体】

(特活) エフエムわいわい

～「まちはイキイキきらめきタイム」一緒につくりませんか？

(特活) こどもコミュニティケア

～医療的ケアや配慮を必要とする子どもたちとの共生保育「ちっちゃなこども園にじいろ」

(NPO 法人) ウィメンズネット・こうべ

～“希望”に向けて DV 被害女性と子どものスタート応援活動

(特活) すまみらい

～精神障がい者の「集う・語る・学ぶ」をサポート！

(特活) 拓人こうべ

～障がいを持つ子どもの「のびのびしたい」と家族の「ほっとしたい」を応援したい

(特活) 西須磨だんらん

～「地域の居場所」で広げる人の輪づくり 次世代の担い手育成に向けて

【第 2 期団体】

(特活) ウェルネスハート

～中途視覚障がい者の自信と笑顔を取り戻す応援をしよう！

(社福) 神戸いのちの電話

～「生きる」を支えるいのちの電話

(特活) C・キッズ・ネットワーク

～小さな「消費者」を応援！ 「食」「お金」「環境」の出前講座をしま～す！

(特活) 生涯学習サポート兵庫

～東北復興を支援する関西の若者を応援しよう！

(特活) 兵庫県子ども文化振興協会

～小児科病棟の子どもたちに笑顔をプレゼント！

(特活) 保育ネットワーク・ミルク

～子育てを応援する人を育てるプロジェクト

③市民ファンドの共同広報事業（継続）

神戸市内には、市民の発意で設立され市民の活動を支える基金（市民ファンドと呼ぶ）が複数あるが、草の根的な活動のため、広報活動を行う時間も人手もかけられない。そこで、それら市民ファンドが集まり、より一層認知度を高めるため、共同で広報活動を行うものである。具体的には共同の広報媒体（ホームページ、ポスターなど）を作成し、市民（企業）への認知度を高めるとともに、市民ファンドを通じた資金循環の強化を通じて「いい活動に寄付したい」市民のニーズと、資金難に悩む NPO 等のニーズの両方を満たすことを目指していくものである。

また、本事業は既存基金（市民ファンド）とのネットワークを形成し、共同して市民ファンドの認知度を高め、兵庫県全体での寄付文化の醸成を図るものであり、ひょうごコミュニティ基金（仮称）設立事業と連関して進めていく。（担当：実吉威、永田譲蔵、奈良雅美、大伴直也、入江陽子）

- 1) ウェブサイト『KifuKOBE』 (<http://kifukobe.jp/>) の公開 (日時 2012 年 6 月 21 日)
- 2) 学習会の開催および研修

諸基金・財団のネットワークづくりとファンドレイジングに関する学習を兼ねて学習会を開催した。

【学習会】

1) 有井安仁さん学習会
日 時 2013 年 2 月 10 日
会 場 神戸市青少年会館
参加者 5 団体から 15 名
内 容 「地域における寄付文化の醸成のために」 (講義と質疑応答)
2) 石原達也さん学習会
日 時 2013 年 2 月 10 日
会 場 神戸市青少年会館
参加者 5 団体から 15 名
内 容 「地域における寄付文化の醸成のために」 (講義と質疑応答)

【運営委員会参加団体】

NPO 法人 しみん基金 KOBE	財団法人神戸学生青年センター「六甲奨学基金」
定住外国人子ども奨学金実行委員会	公益財団法人 神戸文化支援基金
認定 NPO 法人 フードバンク関西	公益信託 神戸まちづくり六甲アイランド
財団法人 木口ひょうご地域振興財団	社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会
NPO 法人 コミュニティリンク	「ひょうごコミュニティ基金」 (仮称) 準備会
認定 NPO 法人 市民活動センター	神戸市 (協働と参画のプラットフォーム)
兵庫県中小企業家同友会※	日本政策金融公庫※
(※オブザーバーとして参加)	

④神戸文化支援基金事務局

公益財団法人の事務局業務を受託し、助成に関する諸手続き、理事会・評議員会運営、事業計画・予算および報告・決算等作成等のほか、以下の事業にかかる事務業務を担当した。

神戸文化支援基金の事務局受託は今年度で終了し、コミュニティ財団の発足にあわせて、同財団に事務局は移譲した。

- ・兵庫県下で発表される芸術文化活動 (2013 年 4 月～2014 年 3 月実施企画 13 件 180 万円) への助成
- ・東日本大震災の被災地を励ます芸術文化活動への助成実施
- ・Kobe Art Award (KAA) 旧公益信託亀井純子文化基金 20 周年を記念し、表彰事業を実施 (担当: 実吉威、入江陽子)

⑤住友ゴム CSR 基金、GENKI スクエア事業

- 1) 2013 年度 CSR 基金助成事業

本事業は同社の CSR 事業の一環として、マッチングギフト方式で積み立てられた基金から拠出し、環境保全、災害支援、交通安全、地域固有の解決に取り組む団体を対象に助成するものである。KEC は 2010 年度より受託している。

助成団体は公募ではなく、あらかじめ KEC から推薦した団体を同社内部で選考し、助成先は決まる。本助成については使途の自由度が高いため、団体にとっては活用しやすく好評である。

(担当：入江陽子、奈良雅美)

助成団体	助成金額	備考
NGO 神戸外国人救援ネット	20 万円	継続
NPO 法人阪神淡路大震災よろず相談室	20 万円	継続
(特活) 淡路島ファミリーサポートセンターまあるく	20 万円	新規
(特活) ウィズネイチャー (神戸ぼけっと net.)	25 万円	新規
(特活) 神戸アイライト協会	20 万円	新規
(特活) メリーポピンズの会	20 万円	新規

2) GENKI スクエア事業

毎月 5 日・6 日 (ゴムの日) に 1 回、企業 CSR 活動の一環としての住友ゴム神戸本社の社員約 1500 名に向けて、ボランティア活動・イベント情報 (参加無料、低額のもの) を発信している。ボランティア情報の募集は、KEC が複数のメーリングリストを活用して毎月 3~6 件 (最大 10 件まで) ほど集めて提出している。文字制限もなく、存分に PR してもらえる機会であるので、NPO 団体側にこの場を活用してもらえよう、改善策の検討を進めていきたい。(担当：大伴直人)

⑥ 「サンケイリビング」紙での NPO 等の情報発信

主に女性の読者を対象とした地域情報紙「サンケイリビング」では、月に 1 回、NPO 等が発信しているボランティア募集やイベント・講座 (非営利で公共性の高いもの、無料もしくは低額[実費程度]) などの参加者募集の記事を掲載しており、その対象となる情報の募集を KEC が担当している。紙面スペースの都合上、掲載件数 (最大 4 件) や文字の制限 (110 字程度) があるものの、積極的に応募が集まり、活用されている。(担当：大伴直人)

⑦ SAVE JAPAN 事業

認定 NPO 法人である KEC が、株式会社損害保険ジャパンから寄付を受け、環境保護活動に携わる県内の 2 団体 (寺田池協議会、(特活)兵庫間伐サポートサービス) が実施する事業 (生物多様性保護に関する啓蒙イベント) へ助成を行った。助成金の交付のみにとどまらず、イベントの企画や広報面での支援、当日の運営にも参加した。なお、2012 年 4 月以降も引き続き上記 2 団体と、同プロジェクトとしてイベントの実施を予定している。

2013 年度も継続して実施され、本年度は(特活)ソーシャルデザインセンター淡路の活動をご支援している。(日本 NPO センターからの委託事業)

(担当：藤本高英、入江陽子)

⑧その他の資源仲介事業

明治ホールディングス「お菓子の寄贈プログラム」(全体事務局：日本 NPO センター)

兵庫県内の障がい児支援団体を対象としたお菓子寄贈プログラムにおいて、寄贈先団体の募集および選定を行い、4 団体を推薦した。(担当：入江陽子)

3. 調査研究、政策提言事業

2012 年度は大きな制度改正はありませんでしたが、NPO 法人会計基準も次の改正を視野に入れた組織整備の議論が始まりました。

認定 NPO 法人制度は運用 2 年目となり、「手引き」作成の過程で所轄庁（神戸市、兵庫県）と充実した意見交換をし、よりよい制度運用に貢献することができたと考えています。

①ひょうご NPO 研究会 **新規** (2011 年 9 月～；2012 年度も継続)

当年度は HYOAGON の中で(特活)場とつながりの研究センターに事務局を引き受けていただき、KEC は幹事団体として参画した。

(担当：実吉威、藤本高英)

第 1 回 2012 年 6 月 28 日 (木)

・ 8 人

■兵庫の NPO セクター全体に関わる課題となる、議論すべきテーマの論点出しを行った。今後の NPO 研究会の進行方針・展開が明確となった。

第 2 回 2012 年 8 月 2 日 (木)

・ 23 人 ・ 講師 1 名

■マルチステイクホルダープロセスによる「地域円卓会議」を 10 年以上取り組んできた事例から、さまざまな主体の討議によって市民社会が広がる可能性を感じるとともに、マルチ（多者）の関係づくりの基礎となるパイ（二者）の関係づくりをもっと深めていく必要性について、深い学びが得られた。

第 3 回 2012 年 8 月 22 日 (水)

・ 16 人 ・ 講師 2 名

■企業の CSR 担当者の勉強会・情報交換会を 10 年以上取り組んできた「リンクアップフォーラム」の事例から、企業との関係を持つときのポイントについて深い学びを得た。行政との協働に比べ、交流する機会が圧倒的に少ないため、これから関係づくりを長期的視点に立って行っていく必要性を感じた。

第 4 回 2012 年 9 月 13 日 (木)

・ 13 人 ・ 講師 1 名

■NPO 活動を評価するさまざまな事例を学習し、「評価」の意味を再考することで自らの活動ならびに、NPO セクター全体の将来の展望について、深い学びが得られた。活動の評価はさまざまな試行錯誤を重ねてより良いものを作り上げていくことの必要性を感じた。

第 5 回 2013 年 1 月 7 日 (月)

・ 25 人 ・ 講師 1 名

■寄付の本質とは何か、を考えることで、お金を通した団体と市民との関係のつくり方のあり方に

について深い学びを得ることができた。また、寄付文化を根付かせていくためには、地域資源をストップする中間支援の役割の重要性を理解することができた。

第6回 2013年2月25日(月)

・NP021人 ・議員17人 ・行政4人

■自民党・民主党・公明党の現職県議会議員の方々と、協働に向けて「お互いを知る」という目的のもとで意見交換を行い、互いに深い理解を得ることができた。また、NPOと議会との懇話会の設置の可能性について言及していただくなど、今後も継続的な開催の可能性が見込まれる。橋渡し役として兵庫県協働推進室の竹村室長のお力を借りした。

第7回 2013年3月19日(火)

・8人

■過去6回の研究会の議論から、NPOをめぐる問題は顕在化され、解決方法の方向性も見えつつあり、これをどのように継続的に取り組んでいくかについて議論した。まずはパイの関係を丁寧に作り上げていくことで、個々の関係からセクター同士の関係づくりを目指す。そのためには、社会課題を見せることで、さまざまなセクターの参加を促す取り組みが必要であることが共有できた。

※議論内容：ブログにて公開 <http://blog.canpan.info/hyogon/>

②NPO 法人「手引き」改訂事業（継続）

前年に引き続き、所轄庁の「手引き」改訂を行った。今年度は「認定版」作成が大きな成果である。昨年度の「認証版」も改訂した。

(担当：実吉威、藤本高英)

③NPO 関連制度に関する政策提言等の事業

NPO 法人会計基準協議会の組織体制整備に関わった。(担当：実吉威)

④機関誌「みみずく」発行事業

機関誌「みみずく」を年1号、発行した。(編集長：諏訪晃一理事、事務局担当：入江陽子)

◇第31号：2012年11月30日付、12ページ、4,000部発行

⑤ウェブサイト・メールニュース発行事業

2012年11月20日、ウェブサイトを大リニューアルした。

(担当：大伴直也)

⑥役員就任・審議会・研究会・ネットワーク等

団体（KEC）、個人（中田、実吉、藤本）として以下の団体、ネットワークの役員・会員、および審議会等のメンバーとなった。

(団体)

- ・ひょうご市民活動協議会 (会員)
- ・シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 (会員)
- ・日本 NPO センター (会員)
- ・社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク (NN ネット) (会員)
- ・市民ファンド推進連絡会 (世話団体)
- ・「新しい公共支援事業」について考える NPO 支援ネットワーク
- ・NPO 法人会計基準協議会 (幹事世話団体)

(個人)

- ・ひょうご市民活動協議会 運営委員・事務局長 (実吉) ※2013 年 6 月で退任
- ・神戸市・すまい審議会 委員 (実吉)
- ・神戸市・ソーシャルビジネス円卓会議 委員 (実吉)
- ・神戸市・中間支援 NPO と行政の意見交換会 メンバー (実吉)
- ・第 6 回全国校区・小地域福祉活動サミット in KOBE・ひょうご実行委員会 委員 (中田)
- ・第 6 回全国校区・小地域福祉活動サミット in KOBE・ひょうご実行委員会 企画部会委員 (藤本)
- ・ウィメンズネットこうべ主催「ホワイトトリボンキャンペーン」検討会議 委員 (実吉)
- ・(特活)市民社会創造ファンド 運営委員 (理事) (実吉)
- ・NPO 広報力向上委員会 委員 (実吉)

4. 東日本被災地支援事業

引き続き福島県を重点支援先として、東日本大震災の支援活動を行いました。福島県 NPO に対する支援のほか、2012 年 4 月から兵庫県に避難されている方を支援する団体のネットワークづくりにも取り組み始めました。

①職員派遣

第 2 陣派遣を模索したものの実現せず。

②被災地 NPO 応援基金の募集と助成実施

当期も被災地支援のご寄付をお預かりした (791,525 円)。これを原資に、兵庫に東日本から避難されている当事者のグループを応援する少額助成を実施した。(担当：藤本高英)

③避難者支援団体のネットワークづくり

福島県を中心として、東日本大震災による広域避難者が兵庫県に避難してきており、その数は公的に把握されているだけでも 1000 名を超える。その支援に携わる団体は県内にも数多く、その横連携を図ろうと、福島から戻った藤本職員が 2012 年春以降、ネットワークづくりに奔走した。

現在、諸 NPO、社会福祉協議会、弁護士会、コープ、YMCA 等といった支援団体が約 30 集まり、「避難サポートひょうご」として実態調査に取り組むなど連携を図っている。(担当：藤本高英)

④東日本大震災 NPO 育成・強化プロジェクト

日本 NPO センターが(特活)ワールドビジョンの協力を得て行う、被災地の NPO の人材育成プログラム。KEC からは実吉が「メンター」となり、福島の 3 名/3 団体を支援した。

首藤亜希子さん (特活)ココネットマム (郡山市) 代表理事 (2012 年 9 月～)

新妻裕美さん 南相馬災害 FM「ひばり」スタッフ (2012 年 9 月～2013 年 7 月)

今野由喜さん (特活)つながっぺ南相馬代表理事 (2012 年 9 月～2013 年 2 月)

5. その他の事業

①JICA 技術研修事業

昨年度実施した「災害に強いコミュニティづくりに向けたボランティア・マネジメント」研修の3年目を企画、実施した。併せて、本事業に使うテキストの開発事業も行った。JICA（独立行政法人国際協力機構）委託事業。（担当：入江陽子、古寺瑞代）

期 間：2013 年 2 月 26 日～5 月 27 日

参加者：ミャンマー、フィリピン、タイ、ベトナムの各国から計 5 名

コースリーダー：中田豊一（理事長）

②みみずく舎業務受託事業

有限会社みみずく舎の業務を受託してきたが、今春（2013）の同社休業により、2013 年 6 月をもって終了した。

③会館・みみずく書房事業

- 1) 会館事業（郵便箱サービス、印刷機等貸出）
- 2) みみずく書房事業

Ⅲ. 組織

1. 会議

○2012 年度通常総会

日 時 2012 年 9 月 15 日 (土) 14:30~16:30

場 所 秋毎ビル 2 階会議室 (神戸市中央区元町通 6 丁目 7-9)

出席者 正会員 56 名 (うち書面表決または表決委任者 42 名) (正会員総数 71 名)

審議事項 第 1 号議案 2011 年度事業報告案承認の件 (全会一致で承認)

第 2 号議案 2011 年度決算報告案承認の件 (全会一致で承認)

第 3 号議案 定款変更の件 (原案の一部を承認)

報告事項 2012 年度事業計画ならびに活動予算

○理事会

	開催日	審議事項	出席者
第 57 回	2012 年 8 月 11 日 (土) 15:00~17:00	・総会議案 (2011 年度事業報告案、 決算案、定款変更案) について	理事 11 名 (うち表決委 任 7 名)
第 58 回	2012 年 12 月 27 日 (木) 17:00~19:30	・定款変更案について ・「共感寄付」第 1 期助成先について ・ひょうごコミュニティ基金の方向 性と KEC の関わりについて	理事 11 名 (うち表決委 任 5 名)、監事 1 名
第 59 回	2013 年 4 月 10 日 (水) 17:00~19:30	・ひょうごコミュニティ財団の設立 について	理事 12 名 (うち表決委 任 7 名)、監事 2 名
第 60 回	2013 年 6 月 11 日 (火) 18:00~20:30	・2013 年度事業計画案 ・2013 年度予算案 ・賞与の支給について	理事 11 名 (うち表決委 任 5 名)、監事 1 名

○運営会議

2012 年 10 月 15 日 (月)、2013 年 2 月 8 日 (金)、5 月 21 日 (火) の 3 回開催。

2. 会員

	2008 年度末	2009 年度末	2010 年度末	2011 年度末	2012 年度末実績 (前期比)	同、目標
正会員	69	76	73	72	72 名 (0 名)	80 名
賛助/個人	71	37	25	38	4 名 (▲34 名)	50 名
賛助/団体	23	8	6	7	0 団体 (▲7 団体)	20 団体
利用/個人	4	5	2	5	1 名 (▲4 名)	10 名
利用/団体	20	11	3	7	1 団体 (▲6 団体)	20 団体
購読	6	0	0	0	0	0
計	193	137	109	129	78 名/団体 (+20)	180 名/団体

(下段=正会員以外)	124	61	36	57	6名/団体 (+21)	100名/団体
------------	-----	----	----	----	-------------	---------

3. 役員

当期は改選期でないため、全役員が継続した。

理事 中田豊一 (理事長)	理事 今田忠	理事 八十庸子
理事 森田博一 (副理事長)	理事 桑原英文	理事 山下淳
理事 渥美公秀	理事 実吉威	監事 飛田雄一
理事 雨森孝悦	理事 諏訪晃一	監事 宮崎洋彰
理事 磯辺 (東方) 康子	理事 早瀬昇	

任期：2011年8月28日～2013年度通常総会開催の日 (9月7日)

4. 事務局

「ひょうごコミュニティ財団」設立への動きを KEC がスタッフを雇用する形で進めてきたが、2013 年春以降設立準備が進み、同年 6 月をもってコミュニティ財団が独立したため、人員も分離した。

・事務局職員

	KEC 本体	兼任	基金 (財団) 事業
常勤スタッフ	藤本高英	実吉威 (事務局長) 入江陽子 (～2013/4)	奈良雅美 (～2013/3) 大伴直也 (～2013/3)
非常勤スタッフ	大島一晃 (2013/4～) 池田敬子 (2013/4～6) 興津慶 (～2013/3)	山崎ゆり 古寺瑞代	永田譲蔵 (～2013/6)

・「みみずく」デザインボランティア 宮崎悦子

(敬称略)